

# 平成 26 年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

平成 26 年 8 月 11 日  
舢倉診療所長 出島 彰宏

平成 26 年度の舢倉島夏期総合診療は石川県、輪島市の共催により平成 26 年 8 月 2 日（土）、3 日（日）の両日にわたり実施されました。関係者の方々のご尽力により予定通りの日程で無事に終了した。お力添えをいただいた関係者の皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

## 1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、整形外科、眼科、内科、特定健診」診療を実施し、もって舢倉島住民の保健医療の向上を図る。また今年度はこれらの健診に加えて初の試みとして便潜血検査による大腸癌検診を行った。

## 2. 日程

平成 26 年 8 月 2 日（土）午後 1 時～午後 5 時

8 月 3 日（日）午前 9 時～正午（眼科は午前 11 時～午後 2 時）

## 3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山 1-4 舢倉島総合開発センター

耳鼻咽喉科：コンピュータ室

整形外科：レントゲン室

眼科：事務室

内科：診察室、保育室

特定健診：保育室

大腸癌検診：受付ロビー

受付：玄関ロビー

## 4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴 医師（小森耳鼻咽喉科医院）
	中村 江美 看護師（県立中央病院）
整形外科	庭田 満之 医師（公立松任石川中央病院）
	木下 理沙 看護師（市立輪島病院）
眼科	山本 ひろみ 医師（やまもと眼科クリニック）
	谷元 和恵 看護師（市立輪島病院）
内科	堀田 祐紀 医師（心臓血管センター金沢循環器病院）
	樋貝 詩乃 医師（市立輪島病院）
	田村 優太 看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
特定健診	久堂 智恵子 臨床検査技師（市立輪島病院）
	飛岡 香 保健師（市立輪島病院）
血圧測定	竹川 幸代 看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
	宮田 明日香 看護師（県立中央病院）
レントゲン撮影	田上 香織 診療放射線技師（市立輪島病院）
受付	東谷 俊也（県庁地域医療推進室）
	新谷 徹（県庁地域医療推進室）
	橋本 洋文（県庁地域医療推進室）
	木下 充 事務次長（市立輪島病院）

診療補助 外 忠保 庶務係長（市立輪島病院）  
 桑原 陽祐 医師（県立中央病院）  
 竹田 義克 医師（県立中央病院）  
 富木医療器株式会社、株式会社イデックより合計 3 名  
 運営 出島 彰宏 医師（舳倉診療所）

5. 受診状況と問題点・今後の改善案

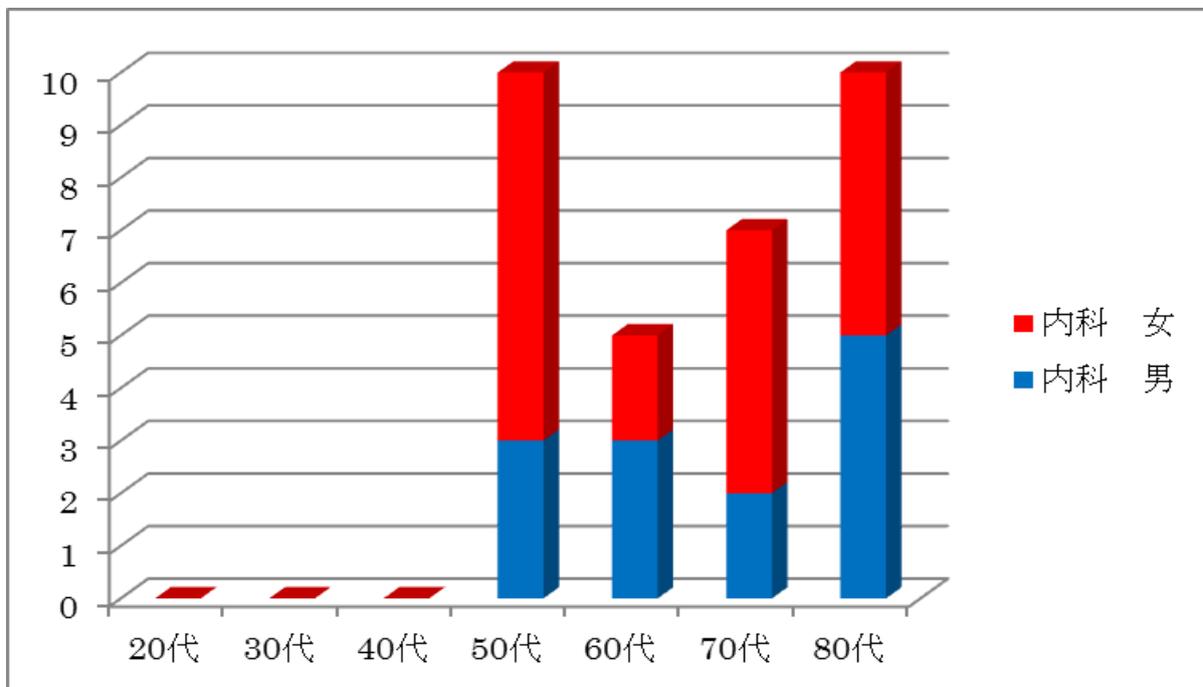
平成 26 年度は、のべ人数 152 名、実人数 65 名の方が受診された。各科の受診件数を下記に示す。

	内科	耳鼻科	眼科	特定健診	大腸癌検診	整形外科	合計
26 年度	40	20	16	28	16	32	152
25 年度	46	27	14	17	None	35	139
24 年度	46	23	8	18	None	None	95
23 年度	50	23	12	18	None	27	140
22 年度	46	28	25	13	None	33	145

※ 眼科は 8 月 3 日のみ

全体の傾向としてはのべ受診人数は増加したが実人数は減少した。（25 年度 73 名⇒H26 年度 65 名）  
 実人数が減少している中で、延べ人数は大きな増加を認めた。大腸癌検診の受診人数が、ほぼ上乘せされた形でのべ受診人数が上昇している。これは、大腸癌検診の島民の要望が強いことを表す結果となったと言える。同時に、受診者が複数の診療科を受診する傾向が高まったことも延べ人数の増加に寄与していると考えられる。また実人数の減少は、高齢化が進む中で持病の悪化により島での生活を断念した世帯が増加したことが原因と考えられる。次項より各科の受診状況について考察する。また、各科の受診状況をグラフにまとめたので参考にされたい。

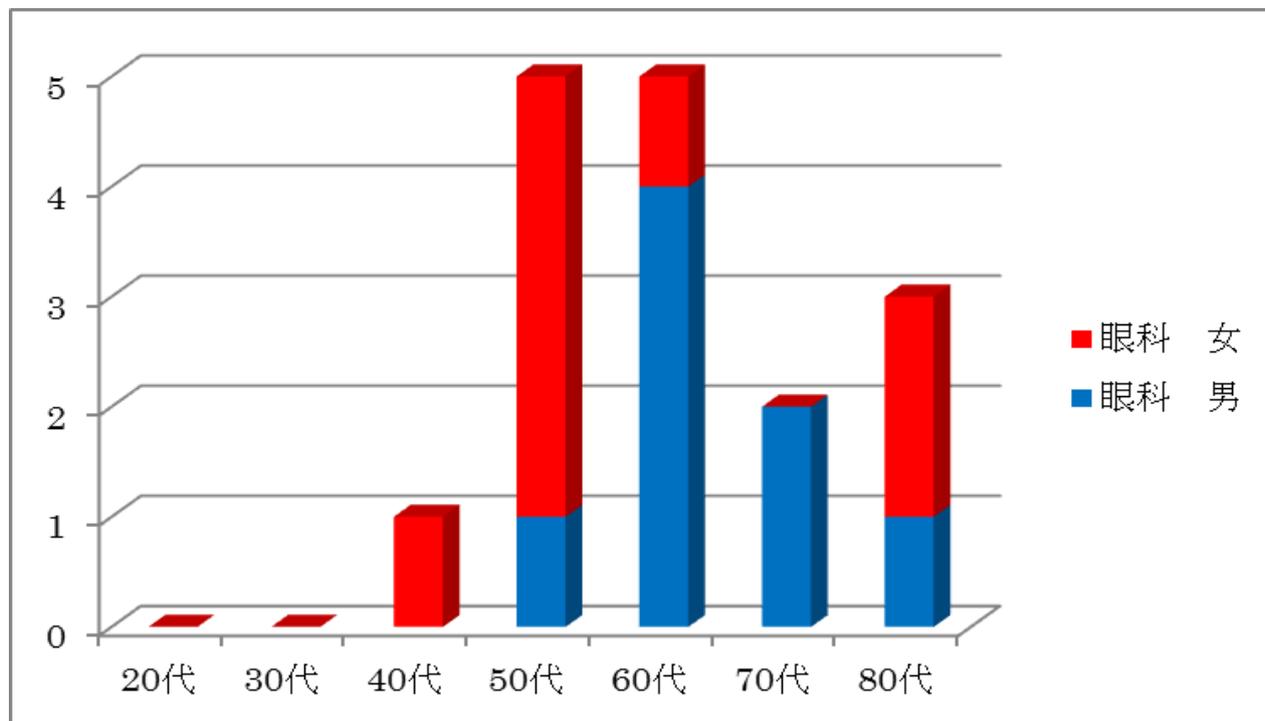
<内科>



内科は昨年度同様 50 歳代以上の年代で概ね高い受診率を示している。今年度より島での生活を断念した方は皆心疾患を抱えていたことから、内科の受診人数は低下を示した。例年 60~80 代の男性は受診率が比較的低い結果であったが、今年度はハイリスクな島民をピックアップし個別に声掛けすることで、男女間の受診人数の差は縮まった。診療所は任期が半年であり、島民全員の基礎疾患やリスクを把握することは困難であるが、今年度は過去 3 年間で診療所へ受診のあったすべての患者を島民台帳にまとめ、また診療所

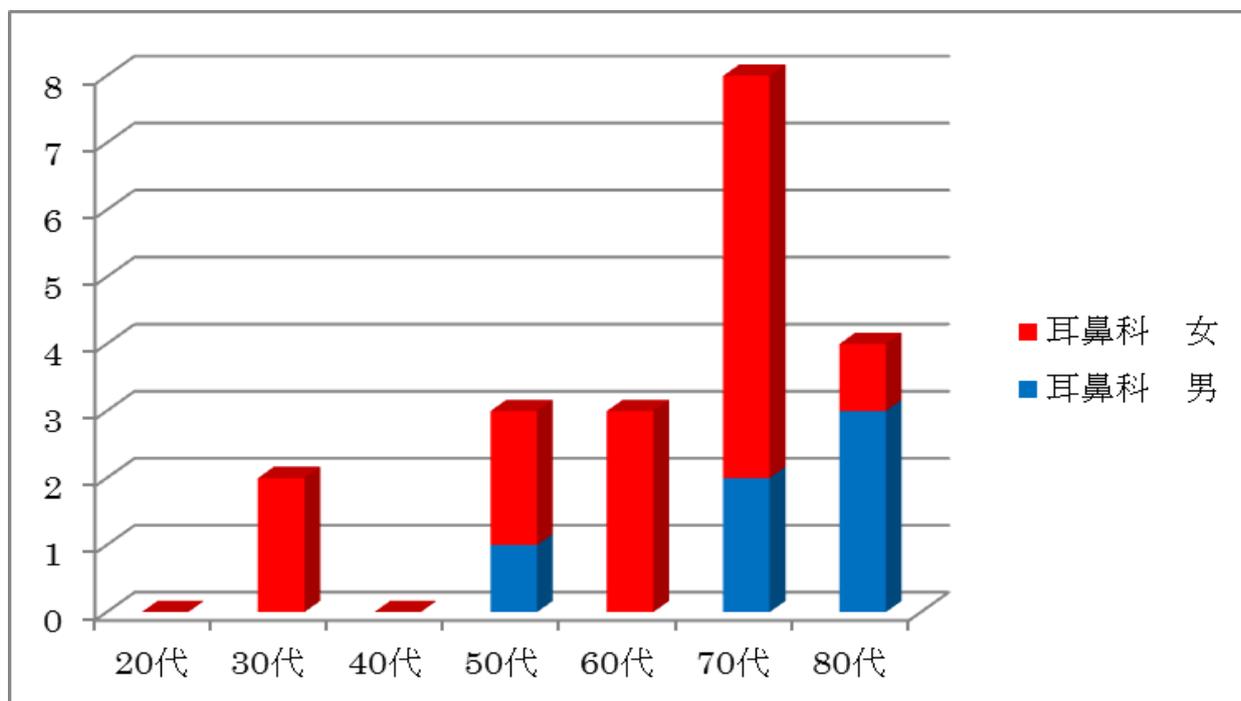
で代々引き継いでいる島民サマリーを活用することで、ハイリスクな症例を比較的漏れなく抽出することが出来た。事前の患者情報の把握は極めて重要であると考えられるため今後も活用していくことが望ましいと考えられる。

### <眼科>



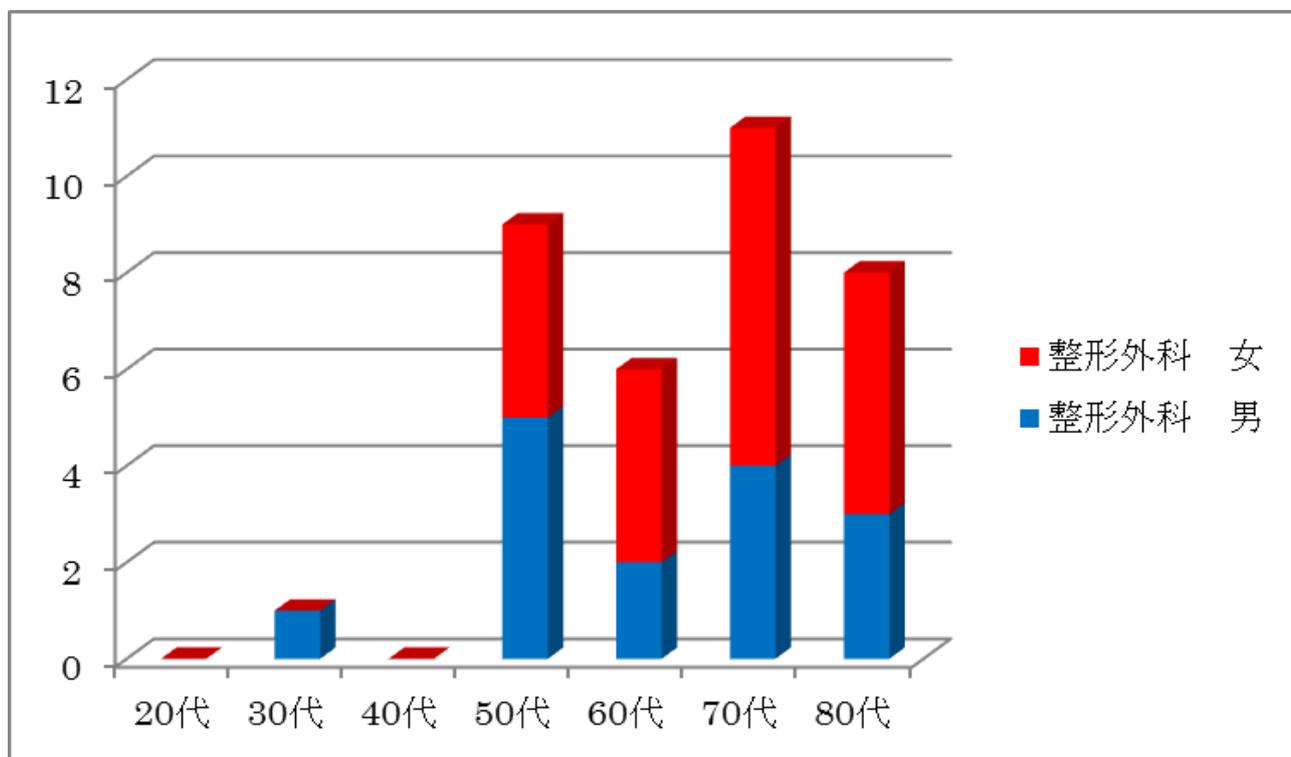
眼科受診者数は、3日の11時から14時までの間と少ない時間設定で、尚且つ沖休みでなかった中である程度の患者数を確保することが出来た。今年度は島民台帳と島民サマリーを活用することで、眼科疾患を抱える患者や基礎疾患に糖尿病や高血圧を抱えおり眼科受診が望ましい患者を事前に抽出することが可能となった。結果として、個別に受診を奨励することが可能となり、昨年・一昨年を上回る受診人数を得ることが出来た。検診である以上、本人の意思に基づき行われるものであるが、必要性の高い人にはこちらからも積極的にアプローチする事が大切であると言える。

### <耳鼻科>



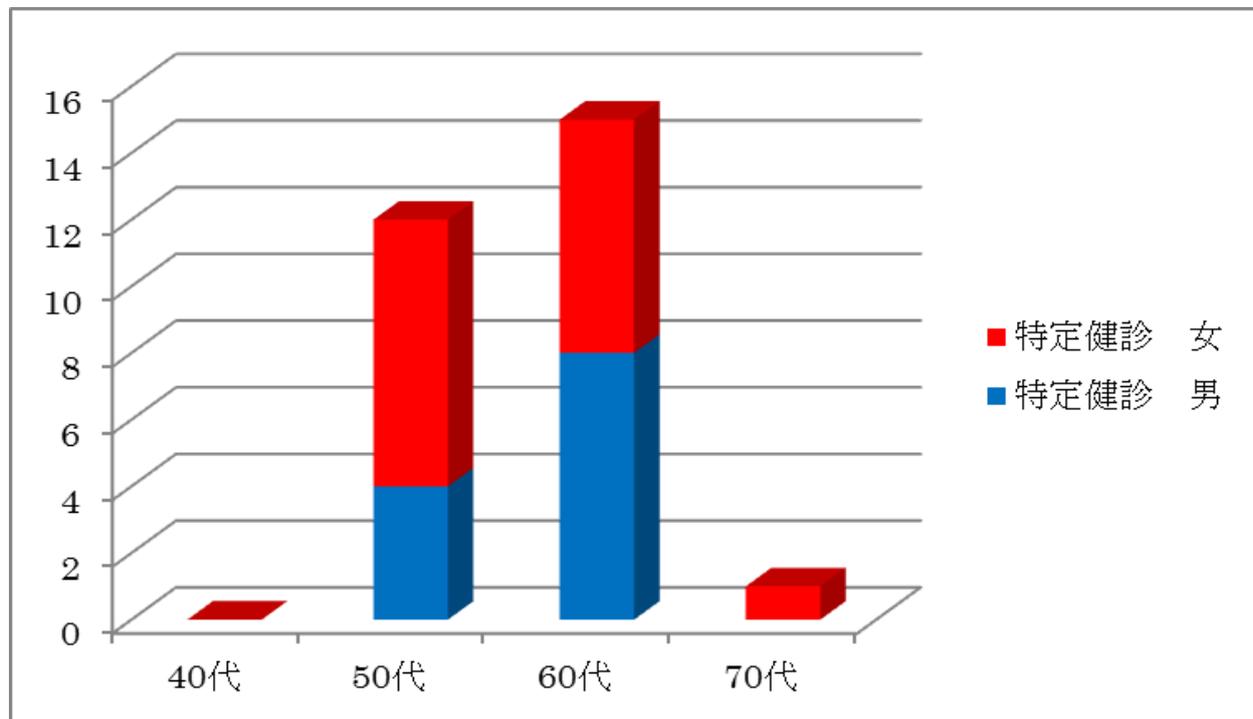
耳鼻科は高年齢・女性で受診者が多かった。海女漁という舳倉島特有の背景を反映したものと考えられる。耳鼻科の受診人数は年々減少傾向にあるが、現在の受診者の年齢層を鑑みれば今後はゆるやかに減少傾向が続くと推測される。しかし、舳倉島には20-40歳代の海女も10人程度おり、そのような自覚症状の少ない若年層のうちから定期的な受診を奨励していく事が、今後の課題であると感じた。

### <整形外科>



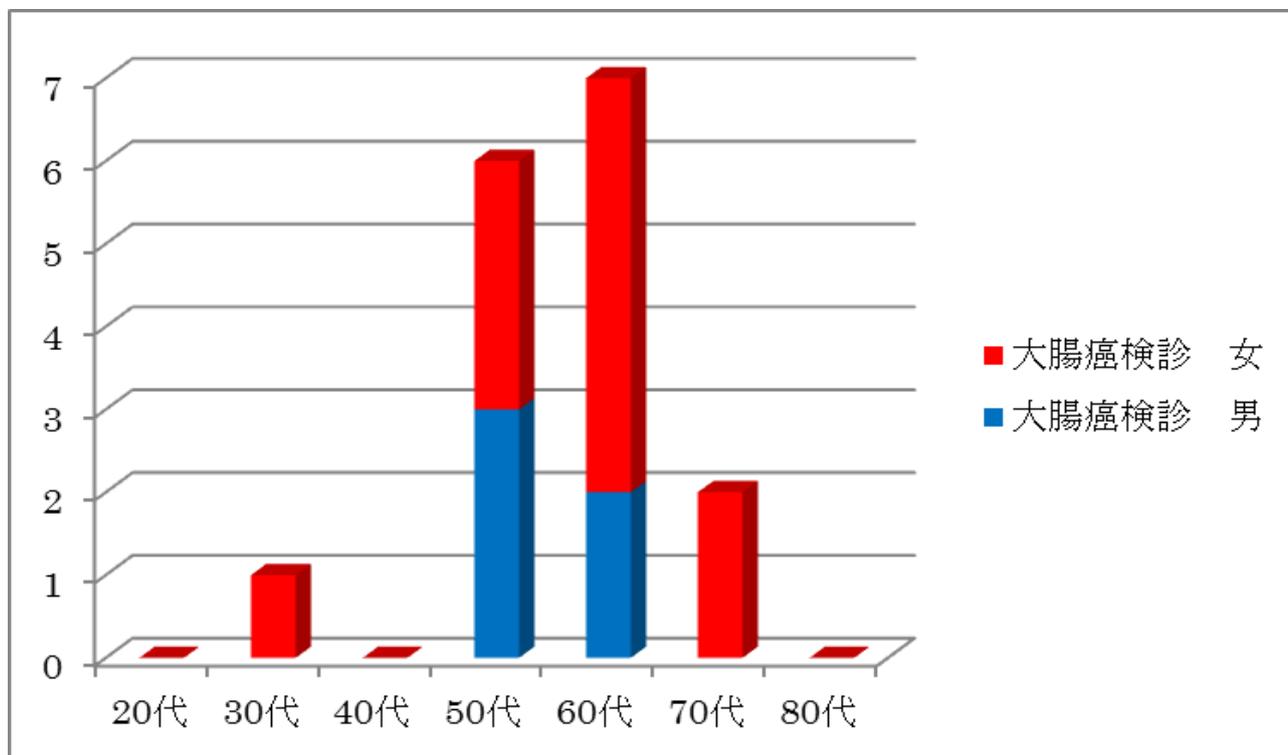
整形外科は内科に次ぐ高い受診率であった。島民数の減少が進む中、受診者は3名の減少にとどまっており、島民にとって整形外科の総合診療の重要性を如実に表す結果となった。整形外科のみでの受診者も数名おり、また世代間の受診者数の比率においては、若い世代の受診率が他科と比し高いことから今後も整形外科の総合診療の必要性は高いように感じる。

### <特定健診>



特定健診は、受診人数が増加した数少ない健診項目であった。若年～壮年世代の島での人口は横ばいであるが、その中でも受診人数は増加を示した。これは特定健診の認知度が上がったことの他に、4月から広報を積極的に行ったこと、住民台帳から対象年齢となる方を抽出し個別に受診を奨励したことが増加の要因と思われる。今後も積極的な働きかけが重要である。

### ＜大腸癌検診＞



今年度、初の試みとなった便潜血検査による大腸癌検診は16名の受診となった。

島民の要望があって今年度初めて導入した項目である。2日間にわたって事前に島民自身で便を採取しておく必要があるため手間がかかるが、住民は真摯に取り組んでくれた。島では大腸内視鏡を受けるためのハードルが高いこともあり、まずは侵襲が少なく比較的簡便に出来る便潜血検査ならば受診したいという希望が大きかったので今後も継続していくことが望ましいと考える。

## 6. 各科診療内容

### ＜内科＞

昨年度より引き続き、内科健診は心臓健診として堀田医師に担当して頂いた。島の高齢化および高血圧・糖尿病罹患率の高さより、循環器疾患合併者が多く、専門的視点からの診療がますます重要になってきていると思われる。H21年度から実施しているが、毎年大好評であり、今年度も40名と多くの受診があった。市立輪島病院樋貝医師には堀田医師の診療補助について頂いた。受診希望の島民には事前に胸部レントゲン撮影と心電図記録をしておき、また当日は身長、体重、血圧測定を施行し、日々の診療と処方内容確認のため、全例島民サマリーを参照頂いた。有所見者には心エコー検査を施行し、精査頂いた。また、下肢の血管ドップラー超音波検査も併せて施行して頂いた。

結果では、目立った異常所見は閉塞性動脈硬化症、弁膜症および心拡大であった。そのうち1名の患者は心臓カテーテルのフォローアップを受診しておらず、精査が必要であるとの判断に至った。本人希望もあり、秋に精査の方針となった。その他、カテーテル治療を受けた受診者の治療後のフォローアップの予定など、専門的視点から治療方針の指導を頂いた。

## <眼科>

昨年度に引き続き、今年度の眼科健診も山本医師に担当して頂いた。昨年度と同様、センター内事務室を暗室として使用し、無散瞳眼底カメラと手持ち眼圧計を借用して頂いた。また、カメラ設置のため富木医療器とニデックの業者の方に来島して頂き、準備から眼底撮影、視力測定までご協力を頂いた。無散瞳眼底カメラは撮影にかかる時間も短く、散瞳薬も不要であり、以前薬剤アレルギーなどで散瞳眼底検査ができなかった方も眼底を観察できるということで、限られた時間の中での健診には非常に有用であると思われた。

結果、受診者は 16 名で、高血圧眼症、糖尿病網膜症、後発白内障が今回の健診を契機に診断された。また、視野検査や更なる精査が必要とされた方も若干名おり、普段の診療において、なかなか専門的な診察・方針決定が難しい中で、専門医にしっかりと診察して頂いたことは、受診者・診療所双方にとって非常に有益な事と考えられた。島民の年齢・高血圧・糖尿病有病率を考慮すれば受診者を増やす事より大きな成果が期待されるだけに、今後も更なる参加者増加に向けての対策が引き続き必要である。

## <耳鼻咽喉科>

耳鼻咽喉科は昭和 58 年度から今年度に至るまで毎年総合診療に参加して頂いている小森医師に担当して頂いた。総合診療全般においても様々な面で支えて頂いている。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舢倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤー（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、以降、サーファーズイヤーの進行は止まっているとの事である。しかし依然として海女の耳鼻咽喉科領域の訴えは多く（鼻が通らない、耳抜きすると痛い、耳が痛い、聞こえにくい、めまいがするなど）、年に 1 回の耳鼻咽喉科健診は非常に重要であると言える。また、島民の中ではすっかりお馴染みであり、和やかで笑いにあふれた診療風景から、長年この総合診療に参加して頂いている小森医師と患者間の厚い信頼関係が伺えた。

20 名の受診者で異常所見の内容は、外耳道炎や、鼻炎、老人性難聴など軽症のものが大多数であった。しかし、2 名がメニエール病の疑いがあると診断され、他疾患の除外のため MRI 検査が必要と判断頂き輪島病院へ紹介することとなった。また最近、舢倉島にも新たな若い世代の海女さん達が働き始めており、これらの人達は耳栓を使用する習慣が無い。若い世代への健診受診を促し、将来のために、症状の無い頃から健診を受診し小森医師より耳栓の使用方法、有症状時の対応などを聞く機会として健診の場を有効活用していただくことが今後の課題であると言える。

## <整形外科>

整形外科は、庭田医師に担当して頂いた。島民の高齢化が進み、肩・腰・膝などの痛みを訴える島民が非常に多く、日常診療では的確な治療およびアドバイスが行えていないと思われた為、7 年前から実施されているものである。昨年同様レントゲン室で問診を行い、適宜レントゲン撮影を施行して一人一人の症状にあわせた生活上の注意やアドバイス、治療をして頂いた。レントゲン撮影は市立輪島病院の田上診療放射線技師にご協力頂き、スムーズで質の高いレントゲン撮影を実施する事ができた。所長自身、整形外科領域の撮影はやはり困難で上手に撮影できない事も多々あり、大変有意義であった。

受診者 32 名で、変形性腰椎・股関節・膝関節・肩関節症、頸椎症、繊維筋痛症、腰部脊柱管狭窄症、肩関節周囲炎、腰椎すべり症、腱鞘炎などが認められた。処置や注射を実施された方は 10 名（31.3%）であった。MRI などによる精査が必要とされた受診者もおり、今後本人と相談の上後方病院を受診して頂く方針となった。その他にも対症療法（内服加療）を提案して頂いたり、詳細な生活指導・リハビリ指導なども含め、専門的なアドバイスを頂いた。受診者にも非常に好評であり、来年度以降も是非整形外科診療を継続して頂きたいと切に願っている。

## <特定健診、保健指導>

昨年度に引き続き、本年度も輪島市の特定健診を舩倉島総合診療の一部として開催した。対象者は国民健康保険加入者の40～74歳の方で、実施項目は問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、検尿、血液検査、保健指導である。市立輪島病院木下事務次長、外庶務係長、久堂臨床検査技師、飛岡保健師にご協力頂き、保育所を使用し、測定・採血を行った。

受診者は女性16名、男性12名となった。昨年同様、今年度も特定健診の受診者の多くは普段診療所や病院を定期受診する機会のない方たちもおり、特定健診の意義は果たせたのではないだろうか。また今年度で5回目の開催になることもあり、広報の段階でも「特定健診だけは一応受けておくかな」という声も聞かれた。特定健診の認知度が少しずつ上がっており、島民の健康意識の向上に貢献していると感じた場面であった。

今年度は検診当日の保健指導を飛岡保健師に担当して頂いた。昨年度の検査結果や住民サマリーなどを活用し、専用のパンフレットを利用しながらの分かりやすい丁寧な保健指導に住民も新たに生活を改善していこうと心を新たにしていた。島民からは普段の生活を見直すいい機会になったという声や、今の生活で問題ないと言われて誇らしかったという声も聞かれ自分の健康は自分で守るという意識改革につながり大変有意義であった。ぜひ来年以降も保健指導を継続して取り入れていただきたいと願っている。

一方で当日になって受診票が無いというケースや、保険証が島にはないというケースも散見された。来年度は早い段階から「受診票は住民票のある方の家に届くため、受診の為に必ず持ってきてもらう。一度島で確認し、分かりやすい場所に保管しておく」ということを広報する可能性がありそうである。また保険証に関しても、普段の島での生活において使うことがほぼ皆無な為、輪島に置いてきてしまっている。「生活する場所にしっかりと保険証をおいておく」ことを広報しておくことも重要であると言える。

## <大腸癌健診>

今年度、初の試みとして大腸癌のスクリーニング検査として便潜血検査を実施した。

事前に広報し、希望者を募っての検査であったが、便を採取するのに2日間かかること、自分で便を採取することの煩雑さもあり検査人数は16人と少なかった。しかし、その中で半数の8名に異常が見つかり、全員が8月中に輪島病院や石川県立中央病院などで大腸内視鏡検査を受けて頂く方針となった。それぞれの病院の地域連携を活用することで、診療所から事前に検査予約を取ることが可能であるため患者本人が検査予約の為に離島する必要が無くなった。そのためにお盆や輪島大祭の時期に1度離島するだけで大腸内視鏡検査を施行することが可能となったため非常に好評であった。今回の陽性者の割合の高さと紹介時の対応を周知することで来年度以降も受診を促していくことが重要であると考えている。今後も舩倉島での高齢化・喫煙率の高さ・大腸内視鏡検査受診への敷居の高さを考慮すると、島民全員の大腸癌健診参加を促す働きを進めていくことが重要であると考えている。

## 7. 反省点

1 日目終了後に反省会が行われ、様々な意見が交わされた。以下はその要点とそれに対する所長の私見およびその他の問題点である。来年度以降の実施に役立てて頂ければ幸いである。

### ① 受付・待合の問題点と対策

昨年同様、開始前より受診者が殺到し、開始直後には案内などで混乱を生じる事も見受けられたが、昨年と比し落ち着いていた印象であった。受付開始予定時刻よりも15分早い12時45分に受付のみ開始したこと、受診者票を今年度より取り入れ、複数の診療科を受診する場合に一目で受診科や順番を把握できるように工夫したことで、スタッフ・患者本人が検査や診察の順番を混乱することなく検診を行えた印象であった。ただ、受診者票は今年度初めて取り入れたこともあり、患者自身が受診者票を破棄してしまったりスタッフが途中で回収してしまったりということがあった。引き続き受診者票に関する説明が必要である。また、血圧測定や体重測定の順番を待つ際に入り口が混雑し長期に立ちっぱなしとなるケースが報告された。これに関しては、まず部屋の奥へ誘導し、ベンチを配置してできるだけ立っている時間を少なくする、空いているブースへ誘導するため、入り口に誘導役を1人配置するという案が出された。これに関

しては来年度の検討課題としていただきたい。

## ② 設備上の問題と対策

(耳鼻科のファイバー使用+胸部レントゲン+遠心分離機の使用)が重なるとブレーカーが飛ぶ危険がある事が H24 年度より判明している。耳鼻科のファイバーの使用と胸部レントゲンは部屋も隣通しなので耳鼻科健診の補助スタッフが確認しながら使用時間が重ならないように注意する必要がある。

H26 年度は遠心分離のタイミングは気にせず使用していたが、ブレーカーが落ちることは無かった。来年度以降も耳鼻科ファイバーと胸部レントゲンスタッフの声掛けで機器の使用が重ならないようにすれば問題は生じないと思われる。

また、今年度は特定健診の診察室と保健指導のスペースが確保できず保育室で血压測定や採血・遠心分離などと同じ部屋で行わざるを得なかったことも問題として挙げられる。

1 日目は眼科の暗室を使用しておらず、そちらを利用して保健指導を行ったが、2 日目は診察・保健指導をすべて保育所で行ったためプライバシー保護や、騒音の問題、受診者の渋滞による混雑といった問題が生じた。対策としてはスペース確保として、休憩室に区切りを作ってスペースにする、もしくは 2 階のオージオメーターで使用した部屋を診察室にするなどが考えられる。区切りが用意できるか、そして患者を上手く誘導できるかが課題となる。これに関しては来年度の先生に対応をお任せしたい。

## ③ 輪島市の特定健診：

広報での再三の呼びかけにも関わらず、当日受診票も保険証も持ってこない方が数名いらっしゃった。

しかし、数人程度であれば比較的混乱も少なく対応できていたので、今後も 4 月から毎月の広報で受診票と保険証の持参を徹底することが大切であると思われる。また、直接対象者に広報を手渡しして説明することが大切であると感じた。(例えば、同居家族で対象年齢外の方に渡して、本人に伝えて下さいと言って、大抵は伝わっていないことが何度かあった。)

## ④ プライバシーについて

整形外科診療については場所の関係上、例年レントゲン室の一面で行う事になっている。整形外科診療は時間がかかり、時間とともに待合時間なども長くなる。また、レントゲン撮影は内科受診にも必要である事から、本年度は途中からレントゲン撮影と整形外科診療を同時進行で行う事とした。昨年度指摘されたプライバシー保護の遮蔽カーテンについては、テーブルクロス用の布を壁と放射線防護の仕切りとの間に貼るすることで対応した。特に不都合は聞かれなかったので予算の面からもこれで良いように思われる。同様に特定健診での健康指導・診察の部分にも仕切りがあることが望ましいのでこちらに関しても来年度の課題として対策が必要であると考えられる。

## ⑤ レントゲン機器・心電図の操作方法が煩雑で分かりづらかった

こちらに関しては事前に使用マニュアルを操作者に用意しておくことで対応可能かと思われる。来年度の検討課題にしていただきたい。

## 8. まとめ

本年度で舳倉島総合診療は 32 回目となった。これまでこの総合診療が継続されてきたのは石川県、輪島市の協力があり、そして長年診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力頂いた関係各位の情熱、ご尽力によるものである。この健診に対する住民の期待と信頼は大変大きく、専門的な診療を受けられる総合診療は、舳倉島診療において根幹をなしていると言える。夏期舳倉島住民の人口構成を見ると、65 歳以上が約半数、75 歳以上の後期高齢者が約 30%と高齢化社会となっており、この地域特有の職業による潜水に伴う風土病に加えて、生活習慣病、心疾患、動脈硬化性疾患の予防・早期発見、整形外科疾患も重要な位置を占めてきている。また特定健診、保健指導、大腸癌検診に関しては、これからの島を支える若年者中年者の健康保持・増進にアプローチできる良い機会であり、今後も継続することを切に願っている。住民のニーズを明確に見極め、医療や保健など各方面と連携をとりながら、今後も総合診療を行っていく事が舳倉診療所長に課せられた命題と考える。

## 9. 謝辞

本年度も無事に舢倉島夏期総合診療を行う事ができました。参加して頂いたスタッフの皆様、ご協力頂いた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。この総合診療を通して、島民が自らの健康を意識する契機となれば幸いです。所長自身も日常診療を省みるとても良い機会となりました。今後の診療に今回学んだ事を十分に活かしていく所存です。またスタッフの皆様とお会いでき、とても良い2日間を過ごす事ができました。所長そして島民一同深く感謝致しております。

今後とも舢倉島島民の健康増進のためお力添えをいただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

舢倉診療所長 出島 彰宏

平成 26 年度診療スタッフ集合写真（H26.8.3 出航前のニューへぐら前にて）

